

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立三鷹中等教育学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 教務部員＝事務局長
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長（前期課程担当）、副校長（後期課程担当）経営企画課室長、主任教諭（教務担当）、主幹教諭（生活指導担当）、主任教諭（進路指導担当）、事務局 計8名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）
三鷹市教育委員会事務局教育部長、近隣小学校長、近隣保育園長、元教育庁教育監、PTA会長、同窓会役員、近隣大学事務局長、近隣自治会役員 計8人

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年6月14日（水）内部委員7名、協議委員5名
委員・役員委嘱、学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、本校の現状と課題等説明年間計画
 - 第2回 令和5年10月24日（火）内部委員7名、協議委員4名
これまでの教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討
 - 第3回 令和6年2月29日（木）内部委員7名、協議委員6名
これまでの教育活動に関する報告、学校評価アンケートの集計結果・検証について、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和5年6月14日（水）内部委員5名、協議委員1名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和5年10月24日（火）内部委員5名、協議委員1名
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第3回 令和6年2月29日（木）内部委員5名、協議委員2名
今年度のアンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・11月	全校生徒	対象：919人	回収：901人	回収率：98.0%
・12月	保護者全員	対象：928人	回収：547人	回収率：58.9%
・12月	地域・住民	対象：56人	回収：56人	回収率：100%
・12月	教職員	対象：56人	回収：56人	回収率：100%
- (3) 主な評価項目
 - ・本校は、「目指す学校像」の実現に向けた教育活動に取り組んでいる。
 - ・授業は、生徒の学力に合っていて、内容が分かりやすく、充実している。
 - ・本校は、体罰や暴言を許さない姿勢を示している。
 - ・本校は、進路・キャリアについての情報がよく提供され、指導が行われている。
 - ・本校の学校行事（合唱祭、文化祭、体育祭など）は充実している。
 - ・本校は、安全、衛生、学校事故に対する対応がよく行き届いている。
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）
 - ・全体を通して肯定的な評価が微減している。
 - ・今年度は感染症が落ち着き、ほとんどの学校行事を制限なく実施することができたため、学校行事への評価は大幅に伸びた。
- (5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）
 - ・進路やキャリアに関する項目について、昨年度より生徒の評価が微減しているが、保護者の評価が増加している。生徒・保護者への更なる情報提供の工夫が求められる。

- ・コロナ禍が終わり、国際交流が活発になり始めた。生徒や保護者から高い評価を得ている。今後は内容のさらなる充実が求められる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果
 - ・コロナ禍が明けて、生徒・保護者ともに学校行事が充実化したと感じている。新しい学校生活に向けて今まで以上に内容の充実化が求められる
 - ・HPを通じた、学校生活の紹介や学校案内など広報に関して高い評価は得られている。
- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題
 - ・前期生では約4割の生徒が年間20冊以上の本を読んでいるが、後期生になると20%台まで落ち込む。前期生で身に付けた良い習慣を後期生でも継続させたい。授業などで積極的に図書室を活用し、本と触れ合う機会を増やし、生徒の知的好奇心を高めるような工夫が求められる。
 - ・地域住民からは学校の様子がほとんど分からないとの評価が多く、地域住民への質問項目を考え直す必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

- (1) 学校運営
 - ・ICTを活用しながら業務の効率化を図る。
 - ・「三鷹スタンダード」を一層充実させ、教科と学年が連携することで発達段階に応じて生徒一人ひとりの学力を見極め、統一感のある指導を行う。
- (2) 学習指導
 - ・教科会や研修を充実させることで、教員のスキルを高め、生徒の興味・関心を喚起する授業を設計し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる。
- (3) 特別活動
 - ・運動部、文化部ともに能動的に活動して成果をあげるとともに、自己肯定感を高め、集団生活の中で他者を尊重できる態度と心を養う。
- (4) 生活指導
 - ・時を守る、場を清める、礼を尽くす、といった集団生活でのマナーを身に付けさせることに対して、教員が統一感を持って指導する。
- (5) 進路指導
 - ・6年間を見通したキャリア教育の中で生徒が最適な進路選択をできるよう指導する。また、教員が生徒に適切な支援ができるように定期的に進路希望の情報共有を行う。
- (6) 健康・安全
 - ・心身の健康の維持に関する研修会を開催するなど指導体制を充実させる。また、問題の早期発見のために生徒への聞き取りを定期的実施し実態を正確に把握する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

- (1) 協議委員人数 7人
- (2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数
ほとんどの委員から高い評価を得ている。

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人

【成果】 （次年度以降、協議委員が参加できる機会を検討していく）

- ・委員の意見を参考に、文化祭において地域との交流機会を設け、連携強化を深めた。

8 その他

- ・来年度は今一度、質問項目を見直し学校運営に沿ったアンケートを実施する。
- ・土曜授業公開を継続して実施し、保護者への学校理解を促進する。